

「めやす」の教育理念の実現を目指した現地体験型研修旅行の実践
 —留学生が感じ、学んだ「広島」—

REPORT ON A STUDY-TOUR DESIGNED TO REALIZE THE EDUCATIONAL
 PHILOSOPHY OF “MEYASU”: WHAT DID THE INTERNATIONAL STUDENTS
 FEEL AND LEARN IN HIROSHIMA?

森川結花, 甲南大学
 Yuka Morikawa, Konan University

1. はじめに

本稿は、短期交換プログラムの日本語授業の一環として2017年3月に実施した「広島・宮島研修旅行」について報告する。この研修旅行は、従前は親睦と観光を目的とする旅行として続けられてきたものであるが、この年度から日本語授業の一環として扱われることになり、旅行の内容も見直すことになった。そこで、事前、当日、事後の3セクションにわたる一連の学習活動のプランを『外国語学習のめやす』（2012）（以下、「めやす」と略称する）に基づいて組み立て、その教育理念を実現する試みとして実践した。

この旅行では「被爆地・広島 of 歴史的な事実を日本語教育の中でどのように扱うか？」ということも検証してみたいことであった。このテーマは、学習者の母国または各個人の背景事情に配慮して、当プログラムでは長年、慎重に本質的な問題を避けてきたという経緯がある。また、筆者がこの時担当していたクラスは初級者が中心であり、自ずと日本語でできることに制約があった。そんな彼らに大学生としてふさわしい学習活動をさせ、成果物を残させるにはどのような工夫をすればよいのか。それもチャレンジの一つであった。

以上の課題をもって実際にどのように研修旅行を行い、学習者の成果物としてはどのようなものが出来上がったかを紹介していきたい。

2. 先行研究

日本国内で実施されている留学生対象の研修旅行については齊藤（1997）に詳しい。そこでは研修旅行の意義を「1.留学生の精神面に配慮」「2.異文化理解」「3.日本語の応用」「4.留学生の資料探し」という面で認められるとしている。また研修旅行が目的とする「文化」といえば、「歴史的な文化」が好まれるようである。その一例として京都旅行を題材にした具体例が飯塚・ペトルシヤック（2008）で報告されている。

また、被爆地・広島を日本語教育の中でとりあげているものとしては森（2003）や Kubota（2012）がある。いずれも国ごとの歴史的・政治的な背景事情、または個人の心情や考え方の違いを乗り越え、このテーマを我が事からひいては全人類の問題として深く考える意義を述べている。

3. 「広島・宮島研修旅行」の「めやす」型授業実践プラン

甲南の日本語プログラムでは研修旅行（①高野山、②鳴門・琴平、③広島・宮島）および委員会活動（旅行委員会、Year-book 委員会）や文化体験ワークショップにおいて「めやす」型授業案を作成し実践している。もっぱら教室外活動で「めやす」を実践している理由は、プログラム参加学生が教室内では教科書を用いた座学を好む傾向が強いためである。飯塚・ペトルシャック（2008）で先進國中流階級出身の留学生には歴史・宗教に対する興味がほとんどなく、自分たちの生活に直接関係し実用、効率的なものだけへの限定された興味しかないということが指摘されているが、当プログラムの参加学生にもそれがかなり当てはまる。

一方で、教室という枠が外れた環境では非日常性が強まるためか、学習者が教科書にはない活動への参加に積極的になる。よって、学習者の心理的抵抗感の少ない環境が与えられる研修旅行のようなイベントを「めやす」実践の格好の機会ととらえて利用している。

さて、実際の「広島・宮島研修旅行」では一泊二日の前後に「事前学習」と「事後学習」をおき、以下のような流れで学習活動を進めた。

広島・宮島研修旅行学習プラン

【実践】2017年3月（年間プログラムの後期中間試験後）

【対象】初級2名（アメリカ）、初中級3名（アメリカ2、フランス1）、中級前期6名（アメリカ）、日本語のレベルは全員N5～N4の範囲内

【学習者の母語】英語10名（西語バイリンガル3名を含む）、仏語1名

【学習目標】広島・宮島研修旅行の「思い出の旅行記」を書こう！

【学習活動の流れ】

<事前学習>（50分×4回）：

A) 教室内活動：

- ①全体オリエンテーション（英語で）：旅行の目的と注意点、被爆者講話の講師紹介、千羽鶴プロジェクトなど
- ②「広島・宮島」を紹介した読み物を読む。「旅のしおり」、広島観光マップを読んで地名と特産品名を確認。
- ③2日目の午後以降の自由行動の計画をたてる。初めてのメールの書き方を練習する。
- ④会話のシュミレーション練習。広島弁の紹介。ビデオ「耳なし芳一」を見る。

B) 教室外活動

- ⑤千羽鶴プロジェクト：折り鶴を自分で作るだけでなく、周囲の日本人に協力をお願いする。
- ⑥広島のパートナー学生とメールのやりとりをする

<旅行当日>

・1日目

- ①広島平和記念公園内碑巡り（通訳ガイド付き）
- ②被爆者講話（英語通訳付き）
- ③広島平和記念資料館見学

④現地日本人学生と共に広島市内散策ツアー（留学生2名・日本人学生1名のチームで）

⑤夕食：広島風お好み焼きを食べる

・2日目

⑥厳島神社見学（通訳ガイド付き）

⑦宮島内自由行動

⑧各自で帰路につく。あるいは旅行をもう一泊延長する。

【事後学習】（50分×2回）

A) 教室内活動

①二人一組のチームを組み、旅行のハイライトを報告するパワーポイントと発表原稿を作成する。

②旅行報告会を開き、日本人学生を招いて、パワーポイントで発表する

B) 教室外活動

③自宅で「思い出の旅行記」を書く

【評価】

・形成的評価：メールの書き方、自己紹介やお願いをする時の会話など

・総括的評価：「思い出の旅行記」

「旅行記」は当日の行程に沿って6つのセクションに分け、Wordで作成するようにフォーマットを与えた。その際、学習者の日本語レベルが初級中心ということもあり、日本語だけということにすると負担感が増大するのと、書きたいことが自由に表現しきれずフラストレーションが残るだけになることが予想されるので、日英バイリンガルでの記述と写真を貼付して表現を補うような書式を与えた。言語に関しては日本語で無理な部分を英語表記で補うなど、各自で工夫して二言語を使うようにと指導した。ただし、広島市内散策ツアーと宮島自由行動のセクションに関しては日本語の最低文字数の制限（初級は50字以上、初中級・中級前期は100字以上）を設けた。

目標達成に向けて、初級程度なりに学習活動に取り組み、最終的にそれぞれに記念となる旅行記が作成された。

4. 「思い出の旅行記」に見られる学習者の変容

4.1 全体的な傾向

旅行記を日英のバイリンガルで記述させた結果であるが、学習者はそれぞれ表1のような傾向をもって日本語と英語を使用した。また、話題による記述の傾向（書きやすさ／書きにくさ）は表2のようになった。

表1 学習者の記述の傾向

学習者	レベル	母語	言語使用状況
A	初	英・西	英語でより詳しく
B	初	英	日本語で頑張る＋英語で補足

C	初中	英・西	英語でより詳しく
D	初中	英	英語でより詳しく
E	初中	仏	対訳+英語で補足
F	中	英・西	対訳+英語で補足
G	中	英	対訳+念のための英語で補足
H	中	英	対訳
I	中	英	対訳
J	中	英	対訳
K	中	英	日本語で頑張り通す

表2 話題による記述の傾向（日本語は文字数、英語は単語数でカウント）

学習者	広島平和 記念公園		被爆者講 話		広島市内 散策		夕食		厳島神社		宮島・ 自由行動	
	日	英	日	英	日	英	日	英	日	英	日	英
A	35	78	36	123	90	227	44	64	40	98	67	175
B	87	46	73	81	97	55	53	32	41	55	65	42
C	26	85	26	61	129	55	44	56	52	85	146	104
D	82	169	60	109	304	262	61	112	68	100	105	299
E	80	12	98	48	123	34	29	11	145	34	129	56
F	36	45	59	36	119	49	28	18	46	67	230	124
G	63	57	100	79	235	82	49	53	61	23	144	68
H	155	41	10	4	101	27	143	38	147	48	105	35
I	85	43	50	19	186	75	43	13	76	27	191	69
J	107	38	105	64	144	47	112	34	78	41	175	58
K	63	28	68	16	196	16	199	34	100	39	159	16
計	819	642	685	640	1724	929	805	465	854	617	1516	1046

表1より、日本語力に限界のある初級者ほど、日本語は短い文で書き英語で詳しく記述するが、日本語で表現できるようになると、日本語と英語で書く内容にほとんど差がなくなり対訳のようになるという傾向が読み取れる。ただし、レベルや実力に関係なく、本人のポリシーで日本語で頑張る学習者も少数ながらいるという傾向が読み取れる。あくまでも日本語で頑張ることにこだわりがなければ、日英のバランスが対訳的な関係になることが学習者の日本語力と自信の証になるようである。

また表2を見ると、「広島市内散策ツアー」や「宮島・自由行動」のセクションでは、ほぼ全員が日本語記述の最低下限文字数の設定を軽く超えて書いてい

る。これは単純に楽しいことは書きやすいということだろう。逆に最も書きにくかったと見えるのが「被爆者講話」である。この時、私たちが聞いた被爆者講話は、被爆1世の方によるもので、ご自身の著書（河野（2008））をスライドで映しながら語られ、その上に英語通訳も入ったので、学習者たちは日本語のレベルに関係なく話の内容を漏れなく理解することができた。しかし、内容が厳しいものであっただけに、学習者の記述は全体的に日英とも量が少なくなっている。原爆投下直後の広島の様子を直接当事者から聞いたことで、言葉を失っているつまり、一種の言語挫折をしているのであろう。しかし、11名の日本語の記述をまとめて形態素解析¹に通し、表3として使用されている自立語を頻度順に並べてみると、彼らが被爆者講話で受けた印象や意見を更に他者に伝えようとして言葉を選んでいることがわかる。

表3 学習者全体の「被爆者講話」に関する日本語記述の形態素解析結果より自立語の出現頻度数

形態素（延べ）：390、形態素数（異なり）：122

出現頻度数	語彙（自立語）
14	河野、
8	話、
7	思う、
6	とても、
5	悲しい、面白い、すごい
4	広島
3	清美、平和、教える、メッセージ、する、こと、怖い
2	難しい、ため、若者、大切、知る、原爆、非常、嬉しい、泣く、物語、経験
1	それ、好き、フェイスブック、シェア、生存者、彼女、破壊、博物館、訪問、午後、AUSCHWITZ、二人、家族、あまり、わかる、大変、強い、自分、いい、今日、覚える、時々、聞く、未来、酷い、なる、そして、皆、一緒、世界、樹立、できる、大事、あと、地獄、所、核兵器、反対、いる、激しい、細部、たくさん、くれる、親切、人、私、厳罰 ² 、見る、生き残る、ない

表3に見られるように、言語的挫折の中でも学習者たちが選んだ語彙には彼らの受けた衝撃の大きさを示すものとともに、講話者への尊敬、語り伝えることの意義についての理解、そして、平和への希求が感じられる。傷つきながらも彼らなりの精一杯の表現で心情を表し伝えようとしているとみて良いのではないかと思う。

¹ jReadability :<https://jreadability.net/ja/>

² この「厳罰」はおそらく「原爆」のタイプミスと思われる

4.2 学習者 C の変容

さて、これらの学習者の中で個別に顕著な変容を示しているケースをとりあげてみていきたい。まず、学習者 C (初中級レベル) について見てみよう。最初の広島平和記念公園に関するセクションでは、以下に引用するように、学習者 C には日本語よりも英語で詳細に記述することに頼る傾向が見られる。

ドームを見るのはすごかった。本当にびっくりしました。

I was surprised because I did not think that the dome would be so ruined. In the pictures we are able to see a full dome that was hit during the bombing, but we do not see the rubble, or deformed iron inside, or the support that is barely holding it together. The museum was also very eye opening. I would never expect Japan to show such terrible pictures or statues such as the children who survived but were experiencing hell. It was very impacting.

次の被爆者講話に関する日本語の記述もそっけないほど手短で簡単である。

あまりわからなかったけど、とてもおもしろかったです。

We were a group of older students so she was able to describe in detail what she experienced during the bombing. People's skin melting, stepping over/through dead bodies, watching corpses float up and down the river during the different tides. It is crazy to think that humanity can do such a thing when we are also capable of loving each other.

しかしながら、日本語では「あまりわからなかったけど・・・」と言葉少なにしか書いていないが、英語の記述には講話の細部までよく記憶していることを表している。「あまりわからなかった」の意味は、講話者の話す日本語が聞き取れなかったという意味かもしれないが、英訳によって理解したことについて日本語で印象を述べることはしていない。この学習者 C には他のセクションでも日本語では表現しきれないことを英語記述で補っているらしい兆候を見せている。次の記述は楽しかった広島市内散策ツアーについての記述である。日本語の課題

(100 字以上書くこと) はこなしているが、それ以外に書きたかったらしい、日本人学生とのコミュニケーションにおいて苦労を味わったという内容 (下線部筆者) に関しては英語で記述している。

私のパートナーは〇〇さんです。ツアーガイドは××さんです。まず、広島城見に行きました。広島城に行くとちゅうじんじゃを通りました。広島城にのぼったが、上のけしきはすごかったです。そのあとでジャンプショップに行つて、一緒にプリクラをとりました。楽しかったです。

I had allot of fun. This experience was really great to me because neither me or〇〇 were good Japanese speakers. I was able to speak Japanese with my partner and understand most of what she was telling me. This experience gave me confidence in my Japanese and gave me the determination to keep trying.

ところが、この学習者 C が最後の宮島・自由行動のセクションにいたって書きぶりに変化を見せる。

厳島神社の後で、食べに行きました。友達といろいろなものを食べました。そんなとき、しかが私たちにしたかったです。(Name3)さんが私におもしろいしゃしんをとりました。そのあとで、山にのぼりました。六人と一時間半ぐらいのぼって、上のけしきはすごかったです！終わったら、ロープウェイに乗った、帰りました。

I climbed the mountain with (Name1) , (Name2) , (Name3) , (Name4) , and (Name5) (but returned with a few different people). Along the way we took many funny pictures and pushed through all the way to the top together. Once we got to the top we found many of the other international students. They had come up the other side of the mountain and arrived at the same time that we did. The view from the top of the mountain was absolutely beautiful. I had never seen anything like it. One day I would like to visit Miyajima once again and see this beautiful view of Japan.

まだ英語の方に詳しくを残しているものの、かなり対訳的なバランスに近づいている。平和公園、被爆者講話では日本語の言葉を失い、日本人学生との会話でも苦労を経験した学習者 C が翌日の楽しい経験の中で日本語のことばを取り戻している様子が見て取れるようである。

4.3 学習者 E の変容

次に学習者 E (初中級レベル) を取り上げてみたい。学習者 E は、家族の歴史の中で第 2 次世界大戦中の悲劇の記憶を持っており、被爆者の講話によって辛い思いを蘇らせていた。その思いを抱きながらも、学習者 E は日本語記述では精一杯の率直な記述をし、英語の方では講話者への尊敬の念と平和への思いを述べている。

せいぞんっしやにあいました。かのじよは広島のはかいをおしえました。おもしろかった、広島へのいわはくぶつかんほうもんしました。このごごはとてもむすかしかた、AUSCHWITZ に二人のかぞくがころされたから。It was a pleasure and an honor to hear from such an incredible person. However my family background started to make me feel uncomfortable. I'm skeptical about the success of her mission yet I do hope it will come true and that she'll be able to see it!

そして、学習者 E はその後の行程で、周りの友人や環境 (天候や自然など) によって辛い思いを癒やされたことを英語で記述している。

広島のともしちにあいました！すごかった！〇〇なまえです。あたらしい人に会うのはとてもおもしろかった！いしょに広島しろへいたり、日本のいえんも行きました、きれかった！しょうてん街へいきました、いろいろなみせにあいましたがなにもかえませんでした。

I had an awesome time! I wasn't confident about talking in Japanese at first but I tried and everything went well, really a pleasure to have met this lovely girl. Thanks for the opportunity!

みやじまへ行きました！てんきがほんとはよかった。宮島のおてらへ行って、ともだちとレストランでうどんを食べました。おいしかった！それで山にのぼりました、つかれましたがとてもおもしろかった。あとで、しおはへんかしました！ちかくにとりい海水がありませんでした、とりいからあるけました！すごかった！

Thanks to an awesome weather the hike in the mountain was really pleasant. The site is splendid, and feel so welcoming. Despite being a little bit crowded it was really pleasant to be there.

おみやげをかいました、はじめてでした、まえにりょうですんでいましたから。宮島のかえるのがままむさうかし、(Name6)は島ででんわをわすれました、先生をまちました。(name7), (Name8)と私はおこのみやきのレストランもう一度へいきました。いへへかえって、とてもたいへんがとてもすきかった。

This field trip was by far the best one. The weather condition, location, and atmosphere of the group made it so that I was able not to think about my uneasiness at Hiroshima peace museum. I had a really great time and I am forever thankful to the staff and Konan University for this unique occasion!

最後に学習者 E はこの旅行全体を「たいへん（だった）がとてもすき」"This field trip was by far the best one."とまとめている。本人の内面の中で、一連の経験がマイナスからプラスの評価へ転じるとともに、旅行の機会そのものに感謝するという結論に至ったことを記している。

4.4 二人の学習者の変容

学習者 C および学習者 E の変容をまとめておこう。二人とも原爆投下の歴史を持つ現地で原爆ドームをはじめ当時の状況を伝える様々なモノを目の当たりにした。また、当事者のメッセージを直接聞く機会を得た。そのために学習者 C は日本語の言葉を失い、学習者 E は内面の深い傷の痛みを蘇らせた。二人は形は違うがどちらも「負の体験」を味わったのである。しかし、現地の日本人学生やクラスメートとの温かい交流、そして広島・宮島の美しい自然に癒やされて、「負の体験」を「正」の方向へと転化させていった。そして、学習者 C は言語の上での進歩を見せ、学習者 E は内面的な成熟を深めたことを表現した。この二人は、教室の外での学習活動を通して、「負」から「正」への人間的な成長を遂げたと言えるだろう。

5. まとめと今後の課題

ここまで見てきたように、学習者は教室外の社会と文化に触れるとき、厳しい現実に向き合い、言語的な、あるいは精神的な挫折を経験する。「めやす」が提

唱する「つながる」の学習活動には必ずそのようなリスクがつきまとうことを私たち教師は十分承知しておかなければならない。

かつて、村上春樹がカタルーニャ文学賞受賞スピーチの中で述べたように、「日本人が無常のものの中に積極的に美を見いだしてきたのはなぜか」、それは日本という国土が悲惨な自然災害との共存を宿命づけられているからである。つまり、日本の文化・社会の表層を一枚めくってその基盤を形作った歴史的事実を突き詰めれば、そこで非常に衝撃的な事実を知ることになる。しかし、今回の広島・宮島研修旅行の実践の中では、学習者 C や学習者 E の例に見たように、「負の体験」が社会（周りの人々）とのつながりの中で回復された。ここまでのプロセスをもって「めやす」のいう「人間的成長」が得られるのだということを私たちは認識しておかなければならないだろう。

ちなみに、この旅行に参加した上級レベルの学習者や日本人パートナー学生にもアンケートをとって感想を聞いてみたのだが、上級者になると日本語に関して言語的挫折等もなく「楽しかった」「同世代の日本人とたくさん話せてよかった」という結論に終わっていた。また、話した内容も自己紹介や方言、広島の特産物など、楽しく無難な話題が大半をしめており、特に深みのある話題にまでは踏み込めていなかったらしい。

ただ、アンケートの中で一人の日本人学生から「広島は平和公園以外はあまり観光をするところがないので困りました。来年からは【日本人学生】に平和公園の案内をさせたらいいと思います。」というコメントがあり、これはこの学習プランを実践した筆者への反省材料となった。たしかに、筆者がこの学習プランをたてる上で、協力者である日本人学生の潜在的な能力をどこまで期待してよいか、そして、どこまで彼らに行動を共にしてもらえばよいかを計りかねていたことは否めない。

今後の課題として、学習者の「負の体験」とそれに伴うリスクをどのようにサポートしていけばよいか、また、「負の体験」をしにくいタイプの学習者（たとえば言語挫折を経験しにくい上級者）にどのような課題を与えたらよいか、そして、学習者のパートナーとして共に学ぶ「協力者」にどのような能力が期待できるか、またその能力をどうすれば最大限に引き出せるか、などを考えていきたい。実際に『外国語学習のめやす』に基づいたプランが実践において成功するのは、あらゆる条件が整った「一期一会」の確率しか期待できないかもしれないが、楽しさだけに流されない学習活動プランをこれからも考えていきたい。

参考文献

- 国際文化フォーラム（2012）『外国語学習のめやす：高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』
- 河野きよみ（2008）『あの日を、わたしは忘れない』早坂暁編『ヒロシマ原爆の絵日記』勉誠社出版
- 森玲子（2003）「留学生教育における平和の視点：留学生の論じる『日本との関係』と国際理解」『広島平和科学』25, 109-122

- 村上春樹 (2011) 「非現実的な夢想家として」カタルーニャ国際賞スピーチ
- Petruschak,W. 飯塚恵理人 (2008) 「留学生対象日本文化教材の開発：京都一泊
研修旅行の『寺院』見学を中心に」『民俗と風俗』18, 155-166 日本風俗史学
会中部支部編
- 齊藤眞理子 (1997) 「留学生対象の研修旅行の意義に関する一考察」『文化女
子大学紀要 人文社会科学研究』5, 265-277
- Kubota, R. (2012) Memories of War: Exploring Victim-Victimizer Perspectives in
Critical Content-Based Instruction in Japanese. *L2 Journal*, Volume 4, 37-57